

みえ県議会出前講座

県議会をより身近に感じていただき、将来の住民自治を担う県民としての意識を醸成するため、「みえ県議会出前講座」を実施しています。県内の小中高の学校などを対象に、県議会広聴広報会議の委員が出向いて、県議会の役割や仕組みについて説明し、質疑応答を行います。

特別支援学校での出前講座

11月25日、広聴広報会議の委員2人が四日市市内の特別支援学校で出前講座を行いました。

講座では、DVDの上映で「県議会の役割」について説明したほか、新県立博物館を例に挙げ、県民の意見や要望がどのように県の施策に反映されるかを説明しました。

生徒からは「予算決算常任委員会では何をするのか」「グループホームを増やすことはできるか」といった質問や「バリアフリーを県内でもっと広めてほしい」といった要望が寄せられました。



小学校での出前講座

12月1日、広聴広報会議の委員2人が津市内の小学校に出向いて出前講座を行いました。

講座ではDVDや冊子などを用いて、県の予算の使い方を決めるなど「県議会の役割」について説明したほか、「議員内閣制」と「二元代表制」を挙げ、国と県の政治の仕組みの違いなどを説明しました。

生徒からは「県議会と県庁の関係は」「紀勢自動車道が全線開通したことをどう思うか」「議員の給料はいくらか」など様々な質問が寄せられました。



出前講座の申し込みは随時受け付けています。

特別委員会の活動状況

特別委員会は必要に応じて設置され、特定の事項について調査を行います。

障がい者雇用促進調査特別委員会

障がい者の雇用促進等について、調査しています。

重点調査項目

- 障がい者の雇用実態の把握について
- 障がい者の継続就労について
- 障がい者雇用に関するネットワークについて

これまでの活動内容と今後の取り組み

三重労働局が平成25年11月に発表した、平成25年6月1日時点の「障害者雇用状況の集計結果」では、三重県内に本社がある50名以上規模の企業における障がい者の実雇用率は1.60%で、都道府県別の順位では全国最下位という大変残念な結果となりました。

このような中、本年5月に特別委員会が設置され、雇用、福祉、教育等多岐にわたる課題について関係部局から広く現状や取り組みについて聞き取りを行うとともに、現場にも出向き、伊賀圏域障害者就業・生活支援センターにおける効果的な取り組みや手厚い支援体制、三重労働局における障がい者雇用促進への取り組みの状況、障がい者雇用に積極的な企業と関係団体の協働の

状況等の調査も行ってまいりました。

こういった知見を踏まえつつ、県における障がい者雇用の課題の抽出、今後の取り組み方向について委員間で議論を重ね、現在は委員会としての最終の報告を取りまとめているところです。

平成26年11月に発表された最新の障害者実雇用率では、三重県の雇用率は1.79%と大幅に改善し、全国順位も最下位から33位となりました。今後もこの良い流れを継続できるよう、議会としてしっかりと調査を行ってまいります。



県内企業での調査

みえ現場 de 県議会

「森林づくりと森林を支える社会づくり」

～みえ森と緑の県民税導入を契機に～

三重県議会では、多様な県民の意見を県議会での議論に反映させるため、「みえ現場 de 県議会」を開催しています。

開催概要

今回は11月13日(木)に、尾鷲市にある尾鷲市民文化会館(せぎやまホール)で、「森林づくりと森林を支える社会づくり」をテーマに開催し、森林が置かれている現状や森林づくりを進めるうえでの課題を踏まえ、三重の森林を守り、未来へつなげるための森林づくりはどうあるべきか、関係者や県民の方々から直接ご意見をいただきました。

参加者

- 県議会議員(正副議長、広聴広報会議委員、環境生活農林水産常任委員長、防災県土整備企業常任委員長)13人
- 森林づくり・森林を支える社会づくりに関わる方(林業関係者、NPO団体、企業関係者、森林環境教育指導者など)8人
- 一般公募による県民の方3人



参加者からの主なご意見

テーマ：森林づくりについて

<森林の適正管理の観点から>

- 森林の管理が行き届いておらず、所有森林の境界もあいまい。地籍調査に取り組んでほしい。
- 過疎化により林業が衰退している中で、山を元に戻す、木を切って植林をするといったことで地域も活性化し、自然災害や環境問題にもつながり、雇用も生まれる。
- 森林の手入れは民間では大変。「みえ森と緑の県民税」を使ってやってほしい。
- 森林の多面的機能を発揮するために水脈や気脈を考えた森林整備に取り組んでほしい。
- 山には間伐が必要であり、間伐をして日が入るようにすると木の皮の色が全然違う。
- 土砂崩れは、大地がコンクリート施工され呼吸ができないから起こるのでは。空気の流れという観点から土木工事が行われることを願う。

<県産材の利用促進の観点から>

- 尾鷲では小学校などで地元産ヒノキを使っていることいただき感謝している。こういう事業にはどんどん森林税を使ってほしい。
- 身近なところで県産材利用に積極的な建築・設計の専門家がいるのが、知られていない。公共的手法を使ってPRできないか。
- 県産材利用への補助を拡充するなど、税金の集中利用をお願いしたい。
- 木の家を高いと思っているお客さんが多いが、実はそんなことはないという情報を安心して入手できる場所を作るといいのではないか。
- 三重の木を使って建てた家には住宅ローンの金利を少し安くする制度があるが、実際に利用している方はわずかである。制度のPR不足ではないかと思う。

テーマ：森林を支える社会づくりについて

<森林環境教育の振興の観点から>

- 学校・地域・森林指導者が一体となって環境教育に取り組んでいくべき。学校の先生にも森林体験の現場に来て欲しい。
- 三重県で進めている森林環境教育は小学生からだが、小学生だけじゃなく幼稚園あたりから始めていただきたい。
- 環境ボランティアの横のつながりがないようなので、交流会をもってお互い協力しながらやっていけばよりよい環境教育ができるのでは。
- 子どもたちと植樹をするときに、ただ木を植えるというのと、それが森になるんだと思って植えるのでは全然違う。テーマを持ってやった方が教育になっていくと感じる。
- ボランティアの方には技術的な面やいろいろな知識をたくさん身につけていただくことより広い視野で活動していただけるかなと思う。

<県民、NPO、企業等の森林づくり活動促進の観点から>

- 企業の森活動では、一度植樹はするものの、植えた木がどうなっているか知らなかった。今年から社員参加型で追加植樹を行った。こういった活動を地道に続けていきたい。
- 木材が山から出る仕組みが必要。みんなが森に入れる仕組みのひとつとして「木の駅プロジェクト」の取り組みを始めている。
- みどりの少年隊というのがあるが、48あった団体のうち40が休眠中である。しっかりお金を補助してほしい。
- 県民のみなさんに森林づくり活動に継続して参加していただくために、森林ボランティアの技術や安全研修会をやってほしい。

今後の意見反映方法

参加者からいただいたご意見は、所管の常任委員会で議論するなど、議会として、県政への反映につながるよう取り組んでいきます。